

【ウパニシャド勉強会まとめー2月分】

95回目（2025年2月12日）

2月12日「カタ・ウパニシャド 1-1-2～1-1-6 ナチケーターの思い」

前回は、天国に行くための儀式の話でした。しかし最近の人は、天国に行きたいという気持ちが、あまりありません。

その理由は、今、この世界は、すべてのものがあります。楽しいものや快樂もたくさんあるので、特別に天国に行くやる気が起こりません。しかし昔は今と違って、天国に行くという話が結構ありました。

プラーナや叙事詩の中に書かれている重要な霊的实践は、天国に行くことが目的でした。しかし最近の儀式（ヤグジャー）は、今の欲望を満足させるのが目的になっています。

現在のインドでは、病気や困っている時などのヤグジャーがたくさんあります。それを行うと困っていることがなくなりますが、天国に行くための儀式はあまりありません。いろいろな儀式は、世俗的な願いを叶えるために行っています。

私達ヴェーダーンタ協会でも、ヤグジャーを行います。その目的は、皆さんの幸福のためです。自分の神様への愛を増やすため、清らかになるため、すべて霊的なことのために、ラーマクリシュナ僧院では、ヤグジャーを行っています。

タム ハ クマーラム サンタム ダクシナーす ニーヤマーナース シュラッターヴィヴェーシャ ソーアマンニャタ
Tam ha kumāraṁ santam dakṣiṇāsu nīyamānāsu śraddhāviveśa so' manyata. Verse 1.1.2

ナチケーターは父が捧げた贈り物の類を見た。ナチケーターは若かったが聖典の教えを信仰し尊敬していた。彼はその信仰の光の中で沈黙考した。

【訳】協会書籍『ウパニシャド 改訂版』P44 10行目

……この吝嗇(りんしょく)さ(けち。ひどい物惜しみ)を見て、彼の若い息子であるナチケーターは聖典の説く真理を心に受け止めていたので、ひそかに考えた。

【単語】

タム ハ クマーラム サンタム (tam ha kumāram santam : 息子、ナチケーターは若かった)

クマーラムとは、「とても若い」「子ども」という意味で、10歳から12歳くらいの息子をクマーラといいます。娘はクマーリと言います。そのナチケーターはとても若い(サンタム)息子でした。

ダクシナーす (dakṣiṇāsu : 贈り物) ※複数

贈り物として持っていたものは次の節に書かれています。お坊さんのところへ行くとダクシナー(寄付)をしないといけませんし、礼拝の時と礼拝の後に、その司祭にダクシナーをしないといけません。

現在もダクシナーはお布施のことです。

ニーヤマーナース (nīyamānāsu : 捧げられた)

シュラッター (śraddhā : 信仰し尊敬する性質)

このシュラッターは後程説明します。

アーヴィヴェーシャ (āviveśa : 中に入った) [シュラッターが中に入った]

サハ (saḥ : 彼) アマンニャタ (amanyata : 沈思黙考した)

ピトダカー ジャグダハトゥリンナー ドゥグダハドーハー ニリンドゥリヤーハ
Pitodakā jagdhatṛṇā dugdhadohā nirindriyāḥ ;
アナンダー ナーマ テー ローカースターン サ ガッチャティ ター ダダト
Anandā nāma te lokāstān sa gacchati tā dadat. Verse 1.1.3.

贈り物は病気や老いでミルクも出ない、子も産まない牝牛たちである。他者への贈り物として、そのようなものを捧げる者は、[死後]「アナンダー」といわれる喜びや楽しみが何もない世界に行く。

【訳】協会書籍『ウパニシャド 改訂版』P44 9 行目

だが彼(ナチケーターの父)は、家畜のみ、それも、使いものにならないような、年老いたもの、不妊のもの、盲目のもの、不具のもののみを捧げるように心がけた。この吝嗇りんしょくを見て、彼の若い息子であるナチケータスは聖典の説く真理を心に受け止めていたので、ひそかに考えた[←第2節に該当]。「まことに、このような無価値な犠牲をあえて捧げるような者は、完全な闇に落ちる運命にある」

【単語】

ピトダカーハ (pitodakāḥ : 水を飲み終わった) [水を飲むことができないほど老いている]

ジャグダハトゥリンナーハ (jagdhatṛṇāḥ : 草を食べ終わった) [草を食べることができないほど老いている]

ドゥグダハドーハーハ (dugdhadohāḥ : 牛乳を出すことができない)

ニリンドゥリヤーハ (nirindriyāḥ : 器官がない) [子牛を産むことができない]

お布施をするものは「牝牛」です。その状態が詳しく書かれています。その牝牛は、力もなく、食べることもできない、水を飲むこともできない、子牛を産むこともできない、そのように年をとった牝牛でした。

お布施は、相手がそのお布施が使うことができなければ意味がありません。例えば、江戸時代の貨幣や古くて穴の開いた衣服をあげても意味がありません。

使用できるものを寄付することが必要です。聖典の中に、そのことが書かれています。ここでは、牝牛が若くて、牛乳をたくさん出し、子牛も産むことができる元気な牝牛が、正しいお布施となります。聖典の言葉に従わなくてははいけませんが、聖典の言葉と意味と本当の目的がなんであるのかを理解しないと、問題が出ます。

ナチケーターのお父さんは、そのことを理解していないので、とても悪い状態の牝牛をお布施としていました。良い牝牛もいましたが、それをお布施しないで、年をとった牝牛をお布施しました。

また、別の注釈では、ナチケーターのお父さんが、儀式の前にすべての財産をお布施したので、残っているものがなく、仕方なく、使うことのできない牝牛をお布施にした、という注釈もあります。

注釈の意味が全然違います。1つは、良い牝牛を持っていてもお布施をしなかった。もう1つは、全財産と良い牝牛をお布施したので、良いものがなくて、悪い状態の牝牛をお布施しました。

【単語】

アナンダーハ (anandāḥ : 楽しみが何もないこと) ナーマ テー (nāma te : ~で知られる)

ローカーハ ターン (lokāḥ tān : その世界へ tān : その、それ)

サハ (saḥ : 彼は) [= (贈り物をする) ナチケーターの父] ガッチャティ (gacchati : 行く) ※現在形

ター (tā : それ) ダダト (dadat : 与える、寄付する) ※現在形

しかし、そのような悪い状態のものをお布施すると、結果は、天国にはい行きません。それだけではなく、地獄に行きます。地獄の名前はアナンダー (anandā) です。

儀式で、マントラやギーなどが上手に捧げられても、お布施も重要ですから、お布施も良いものでなければなりません。ですから、ナチケーターのお父さんは、天国ではなく地獄に行きます。

ナチケーターは儀式の様子を見ていて考えました。そこで、シュラッター (śraddhā) の状態が心の中に現れました。

シュラッターの言葉の意味は、普通「尊敬」ですが、本当はもっともっと深い6つの別な意味があります。

- ①「目的に誠実」：目的を達成するためには、何度でも挑戦すること。
- ②「謙虚」
- ③「純粹」
- ④ だましたり、ずるいことをしない。
- ⑤「深い信仰」。これは「聖典の言葉」「神様」「グル（靈性の師）」への3つの信仰と尊敬です。

尊敬するとは、言うこと（教え）に従うことです。

- ・「グルへの尊敬」について。私たちはあいさつで、グルにプラナム（敬礼）をします。それはグルに対する尊敬の証ですが、もっと深い意味での尊敬は、グルの言葉に従うことで、それが重要です。
- ・「聖典の言葉への尊敬」について。聖典によって言葉が違ふところもあるので、混乱することがあります。その時は、靈的な先生に相談することが大事です。例えば、タントラ聖典とヴェーダーンタ聖典の言うことは違います。私のためにはどちらが正しいのか、グルに相談するのが「聖典の言葉への尊敬」の意味です。
- ・「神様への尊敬」について。「神様は永遠無限で、本当に存在して、私の永遠の友で、いつも守ってくださる私の避難所です。」と心から信じる信仰です。

⑥「自信を持つこと」

スワミー・ヴィヴェーカーナンダ（以下スワミーजी）は、「もし、あなたが神様を信じ、聖典を信じていても、自分に自信がないと何もできません」と言っていました。

これらすべての意味がシュラッターには含まれています。

ナチケーターの中には、そのすべてのシュラッター、良い性質がありましたから、スワミーजीは、講演で何回も「ナチケーターのようなシュラッターを持って下さい。」と話していました。

多くの靈的なことに興味があったナチケーターは、その後の節で、死神のところに行きます。そして3つの質問の、最後の質問がとても深い内容だったので、死神はいろんな誘惑をしましたが、ナチケーターはすべて断りました。そのようなナチケーターの態度が、特別な良い性質の若者としての証明です。

1-1-2にある、ナチケーターのシュラッターヴィヴェーシャ (śraddhāviveśā) が物語のヒントになります。

ナチケーターは、聖典の中に書かれてある儀式の内容を理解していましたから、良いお布施をしないとその結果、地獄に行くことを知っていました。その儀式はお父さんが行っていますから、お父さんが地獄に行くことになるので、それを息子であるナチケーターは心配して、それを防ぐために物語が続いていきます。

サ ホヴァーチャ ピタラム タタ カスマイ マーム ダーシャシーティ
Sa hovāca pitaram tata kasmāi mām dāśyasīti ;
ドゥヴィティーヤム トゥリティーヤム タム ホヴァーチャ ムリッティ ヤヴェー トゥヴァー タダーミーティ
Dvītiyaṃ trītiyaṃ tam hovāca mṛtyave tvā dadāmi. Verse 1.1.4

ナチケーターは彼の父にたずねた、「お父さん、私を誰に寄付しますか?」。[父が答えなかったので] 2回、3回、と繰り返して同じことを問うと、ついに父は答えた、「私はお前を死の神に差し上げよう」。

【訳】協会書籍『ウパニシャッド 改訂版』P44 13行目

このように思い、彼は父のもとに行って訴えた。

「父上、私もまたあなたのものです。私を誰に与えるのですか?」

父は答えなかった。しかしナチケータスはその質問を何度も何度も繰り返したので、父は我慢できずに答えた。「汝は、死の神にくれてやろう!」

【単語】

サハ ハ ウヴァーチャ (sa ha : 彼は uvāca : 言った) ピタラム (pitaram : 父に)

タタ (tata : お父さん) カスマイ (kasmai : 誰に) マーム (mām : 私を)

ダースヤスイ (dāsyasi : 与えますか)

お父さん私を誰にあげますか? 息子は一番の財産ですからナチケーターは、父に尋ねました。

【単語】

ドゥヴィティーヤム (dvitīyam : ふたたび) [(父が答えなかったので) 再度]

トゥリティーヤム (trītiyam : 三たび) タム ハ (tam ha : 彼に) ウヴァーチャ (uvāca : 言った)

「お父さん、私を誰に与えるのですか?」と2回聞いても、お父さんは、あまり気にしませんでした。3回も同じ質問をしたので、お父さんは怒りました。よく子どもがいたずらをして、時々、お父さんやお母さんが「家から出ていきなさい」と怒ることがあります。しかし、それは言葉だけで、本当にいなくなるとお母さんはとても心配になります。それと同じですね。

【単語】

トゥヴァー (tvā : あなたを) ムリッティヤヴェー (mr̥tyave : 死の神に) [死の神=ヤマ]

ダダーミー (dadāmi : 与える、寄付する) ※未来形

ナチケーターのお父さんは、とても怒って「死神にあなたを捧げます」と言いました。ナチケーターは、お父さんが本気で怒って言ったのではないことを理解していましたが、良い息子ですから、お父さんの口から出た言葉には従わないといけない、と思ました。

「ラーマヤナ」にも、同じように、ダシラタ王が妻カイケーイに約束して、ラーマを森に追放した話などが書かれてあります。

その時のナチケーターの考えは、次の節です。

ハフナーメーミ プラタモー ハフナーメーミ マッティヤマハ
Bahūnāmemi prathamō bahūnāmemi madhyamaḥ ;
キム スヴィッティヤマッサヤ カルタヴァヤム ヤンマヤーディヤ カリシュヤティ
Kim svidyamasya kartavyaṃ yanmayā'dya kariṣyati. Verse 1.1.5

私は確かに父の数多くの子供や弟子の中で一番の者である。そうではないとしても少なくとも二番目に優れた者である〔最悪の者では決してない〕。父はそのような私をヤマに送るが、ヤマはどのような奉仕を望んでいるのだろうか？

【訳】 協会書籍『ウパニシャド 改訂版』P45 5 行目

それを聞いて、ナチケートスは考えた。「父上の数多い息子や弟子たちの中で、私は最も優れたものである。少なくとも中位ではある。最悪のものではない。その私が何のために死の神のもとへ行くのだろうか」

【単語】

バフナーム エミ プラタマハ (bahūnām emi prathamah : 数多くの者の中で私がもっとも優れている)
〔数多くの子供や弟子の中で〕

バフナーム エミ マッディヤマハ (bahūnām emi madhyamah : 数多くの者の中で私は次に優れている)
〔最も優れていなくても少なくとも次に優れている〕

お父さんの子どもの中で、悪いレベルの子どももいるが、それと比べて、自分が一番良いと自信を持っていました。

【単語】

ヤマッサヤ キム スヴィット カルタツヴィヤム

(yamasya kim svit kartavyam : ヤマが望む奉仕は何だろうか?) [svid : 何 kim : ~か?]

ヤン マヤーディヤ カリシュヤティ (yan mayādya kariṣyati : 私が彼のために出来ること)

自分は悪くないのに、どうしてお父さんが自分にそのように言ったのかを考えました。そして、ヤマに自分を捧げたら、死神にどのようにお世話をしたら良いのかも分からず、混乱していました。

そして、ナチケートスが死んで死神のところに行くのを見て、お父さんはとても悲しくなりました。次の節はそのお父さんを慰めるために、ナチケートが言いました。

アナパッサヤ ヤター フールヴェー プラティパッサヤ タターパレー
Anupaśya yathā pūrve pratipaśya tathāpare ;
サッサミーヴァ マルティヤハ パッチャテー サッサミーヴァージャヤテー フナハ
Sasyamiva martyaḥ pacyate sasyamivājāyate punaḥ. Verse 1.1.5

あなたの先祖たち〔過去の偉大な魂たち〕がどのようなであったか、よくお考えください。そして今生きている偉大な魂たちがどのようなになるか、よくお考えください。穀物は育ち、そして枯れます。人間もそれと同様です。

【訳】 協会書籍『ウパニシャド 改訂版』P45 7 行目

しかし、父の言葉を守ろうと決めて、彼は言った。

「父上、その誓いを悔やまれぬよう！ 既に去った者たちがどのようなであったか、また今、生きている者たちがどのようなになるだろうかをよくお考えください。穀物のように、人は熟して地に落ちます。そして、穀物のように、人は季節がめぐり来れば再び生まれ出ます」

そのように語って、少年は死の神の家へと旅立った。

【単語】

アヌパッシャ (anupaśya : よく考える)

ヤター (yathā : 例えば) [例えば彼らがどのようなようであったか]

プールヴェー (pūrve : 前の) [先祖たち ; 過去の偉大な魂たち]

プラティパッシャ (pratipaśya : 比べる、観察する)

タター (tathā : 例えば) アパレー (apare : あとの) [あなた (ナチケーターの父) と同時代の人びと]

生きている間、自分の話したことに従う、という真実の実践をしていました。今、あなたとあなたの先祖たちを比べて下さい。昔、とても高いレベルの人がいましたが、今も高いレベルの人がいます。あなたはそのような高いレベルの人のやり方に従ってください。

【単語】

サッサム (sasyam : 穀物、植物) イヴァ (iva : 同じように)

マルティヤハ (martyah : 死ぬことになっている、死を免れない)

パッチャッテ (pacyate : なくなる) [穀物のように枯れ落ちる]

アージャーヤテ (ājāyate : 生まれる) プナハ (punaḥ : 再び)

穀物と同じように生まれて、また死んで、また生まれます。繰り返し繰り返し生まれます。あなたは世俗的な人にならないで、高いレベルの人に従ってください。という意味です。

人間の中には、2種類の人があります。1つは、良い性質でいつも真実を実践する人です。もう一方は、とても世俗的で、動物とあまり変わらない、快樂が感覚のレベルで、食事や子どもを作ることなどの快樂を満たすことが大好きで、動物と同じ生き方をしている人です。

その世俗的な人の例えが穀物です。お米は実って、刈り取られて、最後に燃やされて、終わります。そして、また、地に種がこぼれ、実って、を繰り返していきます。

それと同じように、生まれ変わっていく人もたくさんいますが、あなたは、どのような種類の人になりたいですか。

あなたの先祖は真実を実践していましたから、あなたもそれを実践して下さい。あなたは私を死神に与えると言いました。今、お父さんの言葉に従って死神のところに行くので、あなたは悔やまないで下さい、と言いました。

そのように、先祖の偉大な人や世俗的な人のことを、穀物の例えを使って、父親を慰めました。

そして、ナチケーターは死神のところに行きました。